

指導内容の深化・充実に関する主な検討事項＜事務局作成メモ＞

(第1回及び第2回の発表等を踏まえて)

【総論】

- ストレngth・アプローチやエンパワメントの視点から、子供たちの「長所・強み」を活かし、伸ばす教育を実現するためにはどのような方策が必要か。
- 学校全体で多様性を尊重した学校づくりや異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育を推進する等、マジョリティの変容に繋げていくためにはどのような方策が必要か。

【指導内容の深化・充実】

- 漢字や文法等の初期指導に留まらずに、子供たちの資質・能力を育成するためにはどのような視点が重要か。（「ことばの力のものさし」の活用等）
- 子供たちの母語の力をはじめとする子供たちの様々な「力」を引き出し、効果的な指導を行うにあたり、デジタル技術の活用等、どのような方策が考えられるか。
- 児童生徒の来日時期や年齢等を踏まえ、教師・支援員等が指導・支援する際に特に意識すべきこととしてどのようなものが考えられるか。
- 日本語指導のための特別の教育課程、在籍学級での学び、そして学校教育全体での取り組みを関連付け、好循環を生み出していくにはどのような方策が考えられるか。